

とよかわかいぐんこうしょう 東洋一の豊川海軍工廠

豊川海軍工廠は、東洋一の規模を誇っていた。各地の工廠は空襲で壊滅。いつ空襲があっても、おかしくない状況であったので、施設の一部が疎開したほどだ。

空襲警報はあったけれど、大きな攻撃もなく、昼夜の別なく生産活動に従事。

従事者は、近隣の市町村は勿論、東京・大阪・九州・北海道など日本各地から集められた。徴用工・女子挺身隊・学徒勤労動員は、多い時で60,000人に及んだという。



『豊川海軍工廠求人広告
沈んだ兵器工場』ハセ会刊

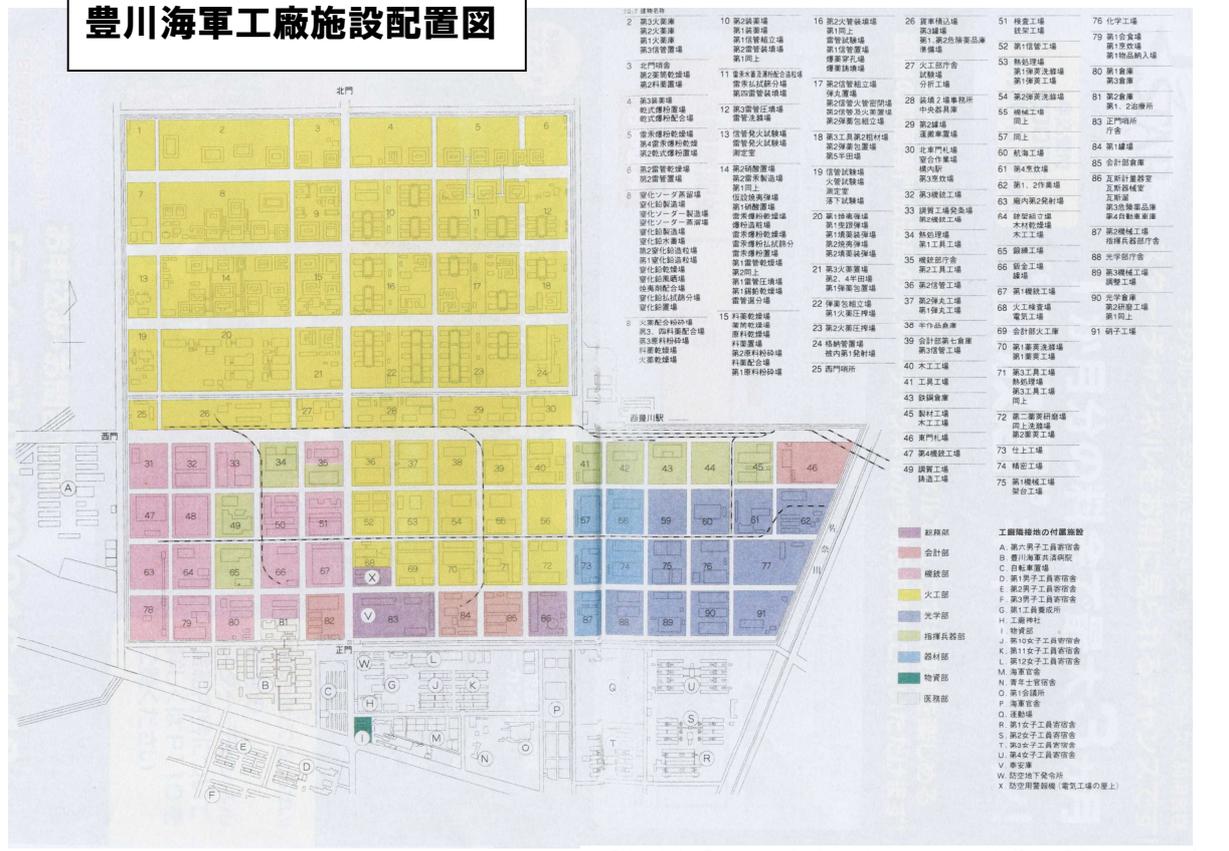


何を作っていたのか？

海軍工廠の工場部門とおもな生産品は以下の通り。機銃部(銃身・銃架) 火工部(薬莖・弾丸・火薬) 光学部(ガラス・レンズ研磨) 指揮兵器部(高角砲用射撃装置) 器材部(各工場の素材)である。

特に、火工部は敷地・人数とも全体の3分の2を占めた。

豊川海軍工廠施設配置図



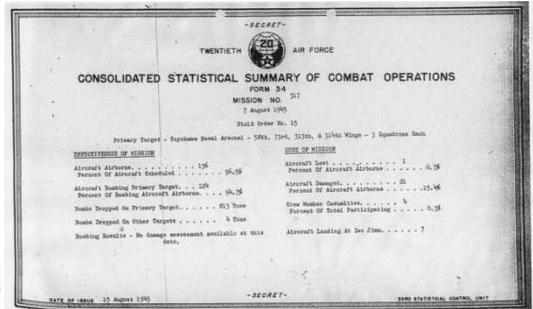
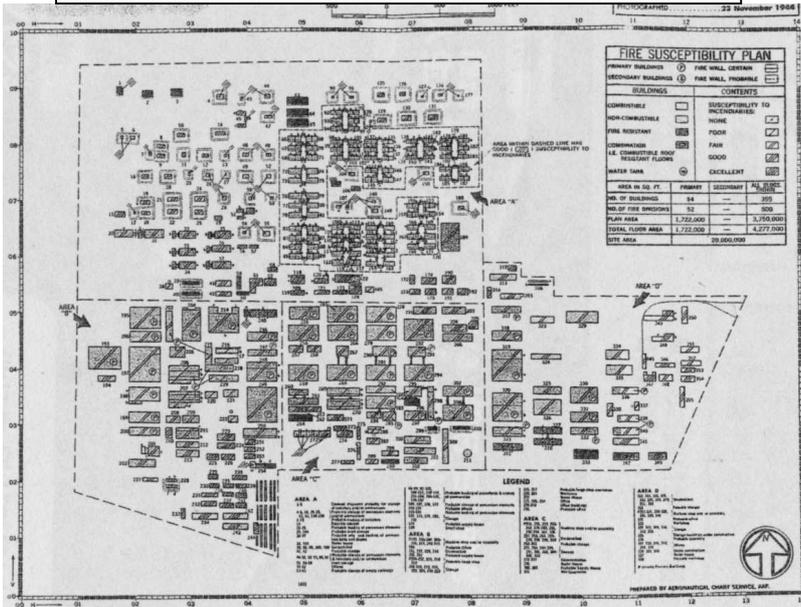
『豊川海軍工廠の記録 陸に沈んだ兵器工場』ハセ会刊

とよかわかいぐんこうしょうほくげき アメリカ軍機密文書から見た豊川海軍工廠爆撃

1944年(昭和19)11月23日、アメリカ軍は、豊川海軍工廠の建物配置などを写真撮影した。

前ページの海軍工廠配置図と比べると、詳細・精密さがわかる。

1944年11月23日アメリカ軍写真撮影参考配置図



豊川海軍工廠への『爆撃報告総括資料』
アメリカ公文書館蔵

8月7日、10:13~10:39

豊川海軍工廠爆撃は「戦術作戦任務第317号」と名付けられた。

アメリカ軍はマリアナ基地3か所から出撃。計131機のB29が豊川へ向かった。

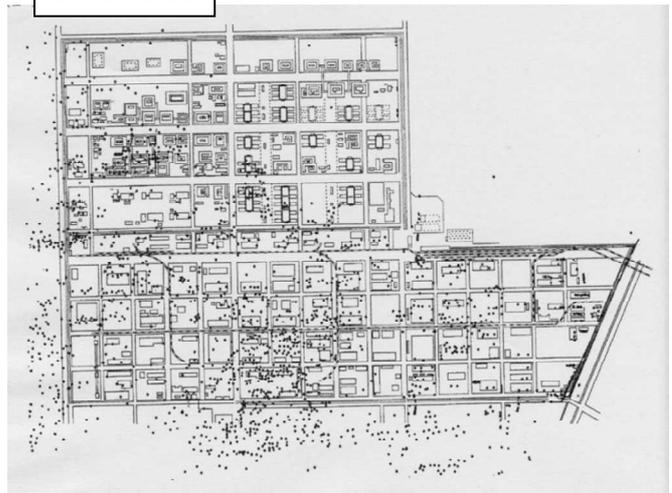
滞空時間26分、投下爆弾874.8トン、250kg爆弾3,256発。たった26分間で、海軍工廠は全滅した。

犠牲者は、約2,700人。終戦1週間前の出来事であった。

豊川海軍工廠へのB29航路



被爆弾跡



上図 桜ヶ丘ミュージアム蔵

左上図・左図 『戦術作戦任務報告 No. 317』

アメリカ公文書館蔵

犠牲者は、夏の腐敗を防ぐためにとりあえず地中に仮埋葬。6年後、遺体を掘り出したが、すでに白骨化。身元判明の遺骨は遺族のもとに返された。

生死を分けたもの・友の死を悼む・角谷和司さんの場合

豊川海軍工廠空爆からの脱出を語る
角谷和司氏



豊橋中学2年の時、学徒動員で豊川海軍工廠へ。中2は装填工場。中3になり、弾丸工場勤務になった。同級生180名全員、全寮制になった。昼夜三交代で従事。いっばしの男子工員なみに仕事をした。

運命の8月7日、快晴。たまたま、日勤だったので、空襲に遭遇した。前途有望な友が多く死んでしまった。生ある者として、工廠の過去・現在を伝えていかねばと思っている。

豊川海軍工廠入廠後の衝撃、指紋採取

1944年(昭和19)入廠直後、手の指10本の指紋を全部取られた。これは衝撃だった。なぜか?製品管理の徹底を図るためだと分かったが、毎日書いた『健康日記』の項目に「盗科」あり。「盗むなかれ」の戒めであったと思う。

配属は、火工部・工廠の生活

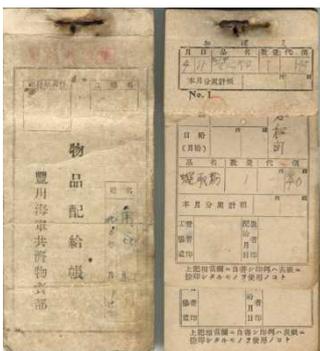
所属は火工部。工廠の3分の2を占める中心部署だった。0時~8時、8時~16時、16時~24時の昼夜三交代勤務。フル回転で生産にあたった。

1944年(昭和19)は、まだまだゆとりがあった。「講話」がよくあり。例えば弾丸の特色は何かなどの勉強をした。



毎日書いた『健康日記』

項目に天候・睡眠・食欲・盗科・便糞・腹痛・作業種類・作業時間・体重・勉強などあり。角谷和司氏蔵



『物品配給帳』
購買部で買ったものは、ノミ取粉・マーキュロ・歯ブラシなど、日用品。角谷和司氏蔵

寮のノミ攻撃

燈火管制が徹底していた。1部屋は12人ほどであった。

寮へ帰ると、人の気配を察知し、ノミが寄ってくる。購買部で「ノミ取粉」を買っては付けた。しかし、一時しのぎで、かゆくて困った。



『個人別報償金経理明細簿』
学徒動員にも、賃金が払われた
角谷和司氏蔵

1945年(昭和20)、食事も少しに・油も代用品

1945年(昭和20)に入ると、食事も粗末になり、物も少なくなった。工場内でも、油を節約するために代用品を使用。今までの潤滑油が石鹼水に代わった。旋盤で2m位の鉄の棒を切ったり、穴を開けたりする時、熱を冷やすのに油を使っていた。その油が足りなくなったのだ。



鉄の代用品・竹製のヘルメット 桜ヶ丘ミュージアム蔵

5月、工場一部空襲・7月、原材料疎開中機銃掃射

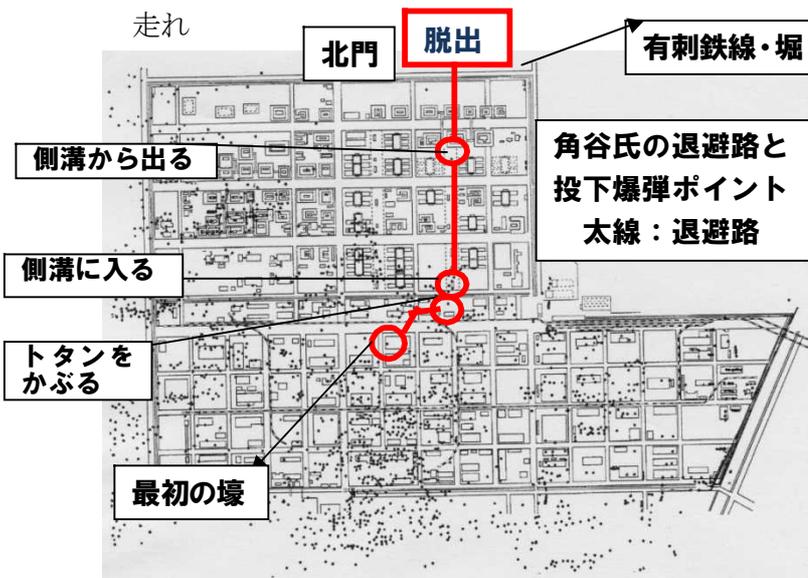
空襲で工場内の一部が爆撃された。機械疎開が始まった。7月下旬、原材料を千両^{ちぎり}へ運んでいた最中、機銃掃射に遭遇。

工場内の一番広い道に沿って、一気に攻撃された。2連銃、数十cm間隔で弾が舗装道路にはねた。葉莖^{やつきょう}が飛ぶ。急いで工場の壁に張り付いた。銃に指をかけて攻撃をしてくるアメリカ兵の顔がわかるくらいの低空飛行だった。

真夏の真昼の空は、夕闇のよう・運命の分かれ目

8月7日。真夏の空は朝から輝いていた。突然、西から爆裂音が地鳴りと共に響いてくる。危ない！逃げよう！近くの防空壕へ飛び込んだ。小さくて低い壕だった。しかし、すぐ大地が激しく揺れ、壕が埋まった。とにかく夢中で出口から飛び出した。

外は、夕暮れのように薄暗い。はいていた下駄が脱げ、裸足だ。北東へ向かって走った。これが運命の分かれ目だった。爆撃が続く。落ちてくる。近くに深さ80cmのくぼ地、とっさに走れ



落ちていたトタンをかぶり飛び込んだ。その途端、ものすごい音がして大地が揺れた。とにかく北へ！走れ！

爆弾の音・工場の外へ

爆弾の音がまた聞こえた。見ると、北へのびる側溝に蓋がない個所！飛び込んで、腹ばいになり耳を押さえた。瞬間、地響きとともに体が揺れた。側溝には水がなかった。

暗い側溝の中を腹ばいになって進んだ。かなり進んだら、再び蓋がない個所に出た。工場内は危ない。夢中で

有刺鉄線を押しひろげ、堀に飛び降りよじ登って北へ向かった。

水と黄^{きなうり}瓜に、ほっ！

近くの農家へ行き水を飲んだ。黄^{もら}瓜を貰った。そのおいしさ、忘れない。攻撃は絶え間なく続いていた。東洋一の工場は、跡形もなかった。

同級生4名・下級生33名死亡、行方不明者を探す

同級生は3分の1が日勤。4名没。下級生は全員日勤。被害多し。引率教員2名死亡。夜、死体を掘りに行った。翌日、行方不明の友の捜索に。100~150程度の死体を見て回ったが、すでに腐敗が始まっていた。直視できない。あの時の辛さは忘れられない。

学徒にて爆死せし友を悼むわれ定年となるもなほ思い絶えず
被爆夜の關照らす火に友掘りし日また巡りきてわれのみ老ける

角谷和司氏作

豊川海軍工廠疎開工場位置



空襲時の弾丸の後
旧豊川海軍工廠跡地

海軍工廠空襲と豊川の復興

『豊川海軍工廠展』桜ヶ丘ミュージアム刊

豊川海軍工廠空襲の記録 — 当時工具養成所 6 期生森田和夫氏の日記の抜き書きを中心に —

5月19日(土)…4時間目の初めに警戒警報が出て終り頃に空襲警報となる 食事をしようとしたら総員退避になり壕の中に入っていたらものすごい爆弾の音がする…
 (指揮兵器部第一機械工場付近被弾、30余人の犠牲者がでる。また、市内土筒・当古・雨谷でも爆撃により7人の犠牲者)

6月18日(月)…夜中1時頃 空襲警報発令総員退避 退避する時 東の方大空を見たら赤く夕焼けのようになっている 爆弾でやられたのだろう…(浜松空襲)

6月20日(水)…夜中0時頃空襲警報になり総員起し 総員退避の時 豊橋上空は真赤である防空壕の入口で見えていたら“Bのやろう”焼夷弾を多数落としかける まるでしだれ柳のとおりだ 落ちた付近より赤い炎が上がる すごい空襲である 私は初めて空襲の有様を見た 焼夷弾が落ちる様子 新聞写真の通りである…(豊橋空襲)

6月21日(木)…(豊川倉庫への)帰りに昨日焼夷弾が落ちた所を遠望する 豊川警察署のある駐在所に落ちた焼夷弾が数個立てかけてあった…

7月1日(日)…また空襲になり 敵機が落としかけたセンデンピラを見た 小さいが日本の新聞のとおり…

7月15日(日)…警戒警報が発令になりつづいて空襲警報 総員退避 情報はP51が宇治山田付近を北上中である 機関砲台員も配置についている そのうちにP51の爆音が聞こえる 一機が低空で寄宿舎上空を通過 13機がうなりだす すごい銃撃戦だ 恐ろしくなった 解除になってやれやれ 私達の室長小笠原さんは銃架工場に弾丸が落ちて頭を負傷される…

7月16日(月)…空襲になったので洗濯物を取り寄せる 総員退避 今日は大編隊で来た様だ こちらへは来なかったが少しP51が来た様だ 近く

の砲台がなった様だ 解除が待ちどおしい…

7月20日(金)…また空襲になり総員退避 敵は方向を岡崎方面とし照明弾を落とす 先回の豊橋と同じく大空を赤く染める…(岡崎空襲)
 …昼食後空襲 総員退避 P51当廠を襲う 今後も油断することは出来ない…

7月24日(火)…今日はすごい空襲だ 小型機、大型機すごい様だ 落弾した所もあるらしい まだ工場付近には来ない…また空襲警報が発令もう二十四時間制爆撃の様だ…

7月29日(日)…夜空襲警報 総員起し あわてて寝巻のまま服を着て退避したので蛋がかっついてかゆい 浜名湖付近が艦砲射撃をうける…

7月30日(月)…朝から空襲たまらない…P51が当廠を襲う 我あわてて伏せもうだめだと思ふ 敵機の急降下すごい 片翼から白煙をふき我は死んだと思ったが 良かった…

8月7日(火)…寄宿舎正門の所まできたらB29がちょうど45度 1機白煙をはいている 壕のそばまで来たら“ヒュー”と音がした あわてて壕にもぐり込む 爆弾投下だ “ズッシーン” “ズッシーン” また敵機が“ヒュー” 何度も何度もそんなことを繰り返す 壕より外を見れば黒煙がもうもうと工場付近から出ている…少ししたって私達は重傷者を戸板で運ぶ 昼食後工場正門前へ死体を運びにいく…市役所が収容所になっているとか 松林の中に同期生の遺体がおいてある 無残だ寄宿舎が収容所になったので 我らが寝る所は養成所教室に代る…
 (豊川海軍工廠大空襲)

8月15日(水)…卒業式もすんだ…話に聞けば日本は惜しいことに無条件降伏の状態にあると聞く…夕食後正門より戦死した同期生を送る…
 —卒業で嬉しく思へば敗戦なり— 和夫

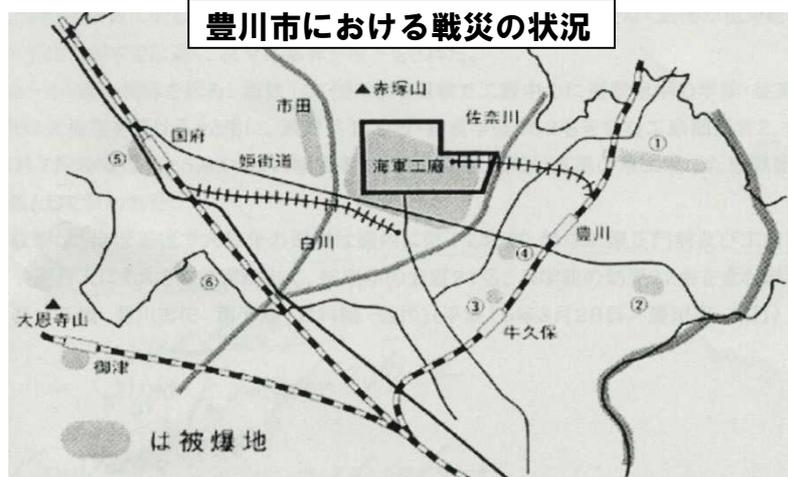
豊川空襲

海軍工廠の悲劇がクローズアップされているが、1945年(昭和20)1月15日以降、B29は、他地域空襲の帰りに残り弾をよく投下した。

主なものは、以下の通り

- ①2月25日 爆弾
- ②5月19日 一部工廠被害
- ③6月20日 焼夷弾
- ④6月26日 爆弾
- ⑤8月2日 機銃掃射電車乗客死亡(国府町)
- ⑥8月7日 豊川海軍工廠大被害

豊川海軍工廠を守るため大恩寺山に海軍が高角砲台を取り付けたが、効果はなかった。



総務省ホームページ

多くの慰霊碑に、平和を祈る



豊川海軍工廠で作っていた弾丸
『豊川海軍工廠の記録 陸に沈んだ兵器工場』
八七会刊



朽ちた豊川海軍工廠内部

「海軍工廠の町」豊川市から 「平和都市宣言」の豊川市へ

豊川市と海軍工廠

1939年(昭和14)	豊川海軍工廠開所
豊川市の人口	1940年 30,000人
	1943年 74,000人
	1944年 92,000人

豊川市は、海軍工廠とともに発展した。当時、機銃生産では日本一の規模と生産システムを誇った東洋一の武器工場だった。

1945年8月7日、空襲。約2,700人の若い命が失われた。工廠は、機能を停止した。

豊川市の現在・未来へ向けて

工廠跡地は、工場や学校などが建てられ、すっかり様変わりした。一部は大学の施設となり、現在「戦争遺跡」保護活動中である。1995年(平成7)豊川市は「平和都市宣言」をした。



工廠勤務者は、兵士ではなかったが、戦死者として扱われた。

上：慰霊碑が立ち並ぶ
諏訪基地内
右：諏訪基地案内板
下：韓国人犠牲者のための「記念樹」

豊川市諏訪墓地

元豊川海軍工廠被爆による
戦没者のための施設です。

豊川市

連絡先 環境部環境課
☎9-2141



犠牲者は日本人だけでなく外国人もいた。「記念樹」韓
国犠牲者慰霊碑



銃弾のあとが残る供養塔(豊川稲荷)
戦死者名を刻すため工廠各工場の定礎石を台座周囲に組んだ。定礎には銃弾の跡が残っている。